

**RYOKI
KOGYO
BUSINESS
GUIDE**

60th
ANNIVERSARY

60年のあゆみ

RYOKI

平成26年(2014)菱機工業株式会社は、昭和29年(1954)の設立から60年を数えることとなりました。これも長年にわたりご愛顧ご指導いただいたお客様をはじめ業界各位、そして今日に至る礎を築いてこられた先輩役職員のご努力の賜物と、心より感謝申し上げます。

創業当時のアイスクリーム製造装置の販売から始まり、生鮮食品の安全衛生への貢献、大規模空間の空調設備の設計製作へと、冷凍冷蔵、ヒートポンプ技術をベースとした事業を展開してきました。高度経済成長に伴う建設ラッシュの需要には空調に加え給排水衛生分野にも事業領域を広げ、新たに登場したコンピュータ技術を取り入れながら設備のIT化もいち早く推進。そして近年においては、低炭素社会・持続可能な社会を実現するための省エネルギー事業や再生可能エネルギー事業に参入するなど、その時代時代に応じて事業内容を変遷させながら歴史を刻んできました。

いま私たちは「環境や最適空間の創造・維持」をテーマに、「設備」「管工事」事業を核としながらも、さらに広く多様なアプローチでお客様のご期待に応えていこうとしています。例えば「造る・建てる」から「賢く使う」を提案する企業、設備を通じてお客様の事業を支援していく、そのような企業を目指していこうとしています。

私たちはこれからも「お客様の信頼を!」を経営モットーに掲げ、お客様の良きパートナーとして時代とともに変化するニーズに対応し続けながら、お客様の信頼とご期待に応えて参ります。今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

RYOKI
BKKI



取締役社長 北川 雅 一 朗

相談役 北川 晶 夫

菱機工業 60年のあゆみ 1954~2014

私がより遠くまで見渡せたとすれば、
それは巨人の肩の上に乗ることによってです。

アイザック・ニュートン(ロバート・フック宛書簡1676年)

菱機工業は設立以来60年にわたり

「お客様の信頼を!」をモットーにして歩んできました。

「冷凍冷蔵設備」からスタートした菱機工業は、
その後「空調」「給排水衛生」分野に進出するとともに、

独自開発した省エネルギーIT技術「RiCS」を活用しながら、
資源の有効利用と快適な環境創造をテーマに事業活動を展開しています。

ここでは「お客様密着」と「技術志向」から生まれたイノベーションと、
その歴史をふり返り先人から受け継いできたDNAを確認するとともに、
これから将来に向けて菱機工業が目指す企業像とその方向性について、
皆さまにご紹介したいと思います。

BIRTH

創業の物語

昭和22年(1947)～昭和29年(1954)

技術者集団としてのスタート

菱機工業株式会社は、北川工業株式会社の機械部門が分離独立する形で1954年に設立されました。それにさかのぼること7年前(1947年)に設立された北川工業は、道路舗装工事業を事業の柱とする一方、工業用プラントなどの設計製作も行っていました。東京でアスファルト応用技術を学んだ北川定信が道路舗装業を、金沢工業専門学校(現・金沢大学工学部)で化学工学を修めた実弟・信久が機械部門の事業をそれぞれ担当しました。

機械部門の主たる事業は、業務用冷凍冷蔵庫の製作でした。当時ようやく普及し始めた冷凍冷蔵庫を、料理店や精肉店、鮮魚店などから受注し設置する仕事です。大きさ6尺四方ほどの木造の冷蔵庫を建て、床・天井・壁面に断熱処理を施し、ヒートポンプ(冷凍冷蔵装置)を設置して配管工事を行なったものです。ヒートポンプは代理店契約を結んでいた中日本重工業(戦後、財閥解体により3社に分割された三菱重工業の1社。3社合併により新生・三菱重工業)から調達しました。躯体の木工工事は、大工を営んでいた信久の岳父・中川多喜智が担当。断熱材には圧縮コルクが用いられ、その接着のためにアスファルトが使われました。ヒートポンプの設置や配管工事、電気設備の設計は、信久が行ないました。ヒートポンプ、アスファルト、木工、これら3つの技術を合体させることで、急速に高まりつつあった世の中の「冷凍冷蔵」へのニーズに応える事業を立ち上げたのです。

「高度経済成長期(1954年～1973年)」を間近にひかえ年々増加していく需要に対応していくためには、道路舗装事業、冷凍冷蔵事業、それぞれが自らの分野に事業を特化し経営資源を集中させるべきとの判断により、機械部が独立し菱機工業株式会社として法人化されました。

初代社長には北川信久が就任。本社は金沢市西側町(現・金沢市千日町)に置かれました。

設立当初より北川信久社長は、菱機工業を「技術力を持つ専門企業」として発展させていこうとする展望を抱いていました。会社が立ち上がったその年から、長谷川仁一(後に専務)、池田政勝(後に営業本部長)など、金沢大学で工学を修めた学生たちを社員として迎え入れ、戦力として登用していったのです。そしてこれら若き技術者たちは、その後の菱機工業の技術開発や事業開発の中心的な役割を担っていくことになります。「技術者集団」「技術開発型企业」としての遺伝子を、菱機工業はその設立の時から胚胎していたのです。



元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
昭和2年	1927年	大正天皇の大喪儀が行われる	9月 北川定信が、金沢市下伝馬町に北川商店を開設。防水、舗装工事を主として事業を行う。(現 北川ヒューテック株式会社、北川瀝青工業株式会社)
3年	1928年	大相撲春場所で、初めてラジオ実況中継が行われる	
4年	1929年	ニューヨーク株式市場大暴落(暗黒の木曜日)、世界恐慌始まる	
5年	1930年	金輸出、解禁 この年、世界恐慌日本に波及「昭和恐慌(昭和7年ごろまで)」となる	10月 創業者 中川多喜智が、冷凍機応用設備・機器の製造販売を金沢市において開始する。(後の菱機工業株式会社)
6年	1931年	満州事変勃発	
7年	1932年	5.15事件	
8年	1933年	ヒトラーが独国家元首に就任 継宮明仁親王(現 今上天皇)御誕生	 中川多喜智
9年	1934年	室戸台風、関西を襲う、東北地方大凶作	
10年	1935年	美濃部達吉の天皇機関説が問題化	
11年	1936年	2.26事件	3月 金沢市西側町に事務所を移転し、北川アスファルト工業所と改称。建材販売や防水工事等、どんな小さい仕事も請け負い、業界の方々との交流を深め、建築防水専門業者として認められる。
12年	1937年	盧溝橋事件勃発、日中両国、全面戦争に突入	
13年	1938年	国家総動員法公布	
14年	1939年	ドイツ軍がポーランドに侵攻、第2次世界大戦勃発	
15年	1940年	日独伊三国軍事同盟締結	
16年	1941年	太平洋戦争突入	 北川定信
17年	1942年	ミッドウェー海戦	
18年	1943年	学徒出陣	
19年	1944年	サイパン島陥落 本土爆撃の本格的開始	
20年	1945年	広島・長崎に原爆が投下、ポツダム宣言受諾、終戦	
21年	1946年	日本国憲法公布 南海地震(マグニチュード8.0)	
22年	1947年	日本国憲法施行 第1回国会開会	7月 北川定信、北川信久、中川多喜智ら7人により北川工業株式会社を設立(現 北川ヒューテック株式会社)し、個人経営から法人組織に変更し、各種冷凍冷蔵装置、アスファルト応用工事、化学工業用諸装置の設計・製作・施工を行う。
23年	1948年	極東国際軍事裁判判決	
24年	1949年	湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞(日本人初)	新三菱重工業株式会社(現 三菱重工業株式会社)と代理店契約を結び、冷凍冷蔵関係工事を本格化。
25年	1950年	朝鮮戦争始まり、特需景気	
26年	1951年	サンフランシスコ対日講和条約・日米安全保障条約各調印	
27年	1952年	手塚治虫『鉄腕アトム』連載開始	
28年	1953年	テレビ放送が開始	 北川信久
29年	1954年	第五福竜丸がビキニ環礁で被爆	10月 菱機工業株式会社として金沢市西側町に設立。北川信久が初代社長に就任。現 北川ヒューテック株式会社の機械部門を発展的に分離独立した。 新潟営業所を開設。昭和38年2月、支店に昇格(現 新潟支店)

FIRST STEP

冷凍冷蔵・空調技術で躍進

昭和30年(1955)～昭和42年(1967)

社運をかけた製品開発

菱機工業は会社設立と同時に新潟市にも営業所を開設し、業務用冷凍冷蔵庫の製作や業務用アイスクリーム製造装置などの販売で成果を上げていきました。そして迎えた1955年、菱機工業に大きな転機が訪れます。

同年、日本海沿岸地方は記録的な猛暑に見舞われ、魚介類に起因する食中毒が大量に発生。新潟県でも1,200名余の患者と9名の死者を出す事態に陥りました。対策に乗り出した新潟市衛生部は、魚介類衛生の基本である「鮮度保持の徹底」を流通小売のあらゆる段階で改善していく方針を打ち出し、鮮魚店への「冷凍庫つき電気冷蔵陳列器」導入を推奨していくことを決定しました。(新潟市衛生部 鈴木氏著書「追憶」より(5ページ上 写真:中))

しかし当時の技術でこの陳列器を製作すると今日の価格で1台約600万円超のものとなってしまいます。そこで三菱重工業の社長宛に協力依頼の書簡を送ったところ、「当社の北陸総代理店である菱機工業と共にできる限りの協力をしたい」との返答を得るに至ったのです。

新潟市役所の庁舎を訪ねた北川信久社長らは、鮮魚店の実情を把握すると直ちに製品開発に取り組みました。開発にあたっては、それまで実績を積み重ねてきた冷凍冷蔵庫製造のノウハウと経験が大いに活かされたことは言うまでもありません。しかしそれに加え、偶然のように訪れたこの機会を社業発展の重大なスプリングボードと位置づけ、全力を傾注した社長以下社員の気概は、その価格設定にもあま

すところなく発揮されました。

その結果、菱機工業は1台18万円という低コストのショーケース兼用冷凍冷蔵庫の製品化に成功。製品は瞬く間に新潟市から県下全域、さらには福井県から山形県にいたる市町村にも普及して行ったのです。

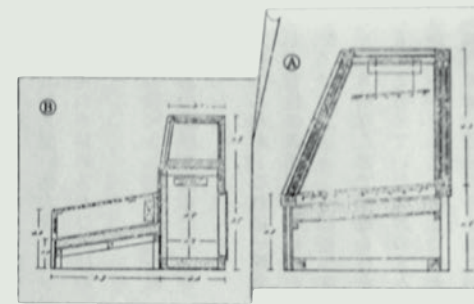
“空調のリョーキ”へ

同じ時期、菱機工業の躍進を支えたもう一本の柱がありました。大空間空調技術の開発です。

北川社長は創業間もない時期から、ヒートポンプを大規模な空間の冷暖房に応用していること、会社設立の年には温泉の廃湯熱を回収し客室の冷暖房を行なうシステムを旅館などに提案していました。その経験が開いたのが、金沢市の映画館「パリー菊水」の冷暖房工事でした。おそらく日本初となる「冷暖房完備の映画館」は大きな話題を呼び「空調のリョーキ」の名を確かなものにしました。

菱機工業の空調技術は、様々な産業分野でもその力を発揮しました。繊維産業では製織工場の温湿度調整装置として実用化され、石川・福井をはじめとする繊維産地の数多くの工場に導入。また高度なコントロール技術を詰め込んだ恒温恒湿装置は、化学工業や製薬、金属、機械工業などの企業の開発部門や大学、研究機関へと納入。さらにこの装置は海を越えイランにも輸出されました。

冷凍・冷蔵、空調事業によって菱機工業は大きく成長し、この期間に蓄積したノウハウと技術はその後の発展の基盤となりました。



ショーケース兼用冷凍冷蔵庫の設計図

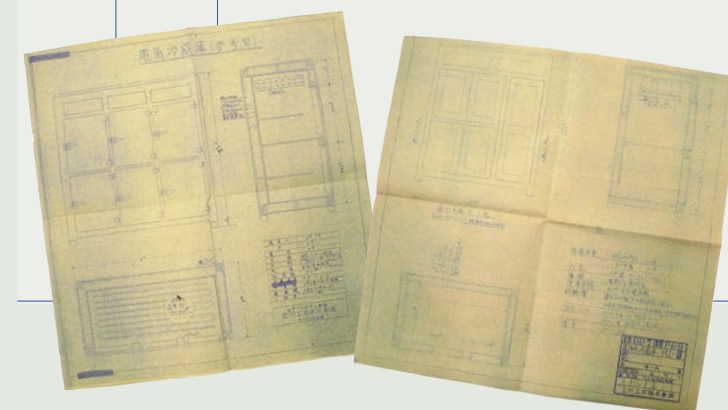


鈴木氏著書『追憶』の表紙

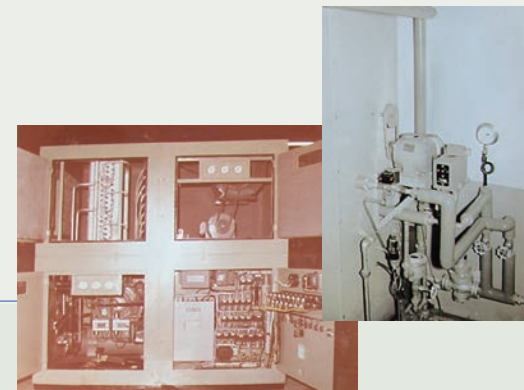


「製図学校」の看板がある旧社屋写真

元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
昭和30年	1955年	神武景気	4月 建設業法に基づく建設業者管工事・機械器具設置工事の登録(建設大臣(二)第4232号) 7月 北陸において最初の本格的なヒートポンプ方式(パリー菊水)の冷暖房装置の設計・施工で脚光を浴びる。
31年	1956年	経済白書で「もはや戦後ではない」と発表 日本、国際連合に加盟	4月 富山出張所(後の富山営業所)を開設。昭和54年2月、支店に昇格(現 富山支店) 4月 福井出張所(後の福井営業所)を開設。昭和58年4月、支店に昇格(現 福井支店) 9月 繊維、食品工業等の空調設備・恒温恒湿装置(一定の温度と湿度を設定範囲内で保つ)、プラント設備等の設計・施工の開始。
32年	1957年	東京都が都市人口世界一に(851万8,622人)	2月 北川信久が死去の為、北川定信が2代目社長に就任。
33年	1958年	東京タワー完成、岩戸景気始まる	
34年	1959年	継宮明仁親王殿下(現 今上天皇)御成婚、 テレビ中継 視聴者推定1,500万人	
35年	1960年	日米新安条約調印、国民所得倍増計画を発表	2月 本社を金沢市中村町(現在地。昭和42年に住居表示、御影町に変更)に移転。 2月 金沢大学、研究所における恒温恒湿装置のユニット化。 9月 日本海側に初めて米穀低温倉庫施工。
36年	1961年	ソ連のガガーリン少佐が地球一周、 「地球は青かった」が流行語に	
37年	1962年	国産第一号原子炉点火、 テレビ受信契約者数1,000万突破(普及率48.5%)	
38年	1963年	ケネディ大統領暗殺	2月 輻射暖房システム設備の施工(新潟鉄工所の車両工場)
39年	1964年	東京オリンピック開催 東海道新幹線開通	
40年	1965年	アメリカが北ベトナム爆撃開始 名神高速道路全線開通	1月 福井、石川県下の主要な超大型繊維工場への送風量300,000m ³ /hの温湿度調整装置導入。 6月 仙台営業所を開設。 昭和61年12月、支店に昇格(現 仙台支店)
41年	1966年	いざなぎ景気	3月 上越営業所を開設。 7月 日本海ガス化学株式会社高度化成肥料倉庫施工。経済性について評価を得る(恒温恒湿装置として、液体塩化リチウムによる本格的液体除湿装置を開発) 10月 恒温恒湿装置イランに輸出。
42年	1967年	公害対策基本法成立	12月 長岡営業所を開設。 平成10年4月、支店に昇格(現 長岡支店)



ショーケースの断面図



イラン輸出プラント

お客様の信頼を！

1968年、社長に就任した北川晶夫(現相談役)は、「我々のモットーは『お客様の信頼を!』である」との姿勢を明確に打ち出し、経営を行なってきました。ここで言う「お客様」とは、仕事の発注元である建設会社や建築設計事務所であるとともに、建物のオーナーである施主、さらには日々建物や設備を使う利用者を意味しています。そして70年代にはその考えを行動指針として明文化しました。(7ページ下 写真:左)

菱機工業の仕事は人に便利や快適をもたらす「機能」を提供することにあり、モノが出来上がってからその価値が評価されるのだ、という「設備」の本質がここには述べられています。この指針は策定以来40年を越えた今でも社内各所に掲示され全社員の行動を律する規範となっています。

世界から学び習い成長する

この時期、北川晶夫社長が導入し、以来今まで脈々と受け継がれているもうひとつの伝統があります。1970年から1年たりとも途切れることなく継続している「海外研修」です。お客様とともに欧米の建築施設を視察するこの研修は、当初は先進事例から学ぶ機会として、今日では異文化体験を通じて社員の成長を促す機会へとその意味を変えてきました。しかし現状にとどまることなく、常に未知のものとの出会いの中から何かを学び取り成長していく—そのような菱機工業の姿勢の象徴とも言うべき、ひとつの場

であり続けています。

建築設備会社への脱皮

1970年代、菱機工業は“空調のリョーキ”の名のもと、高難度の空調工事に次々と挑んでいきました。冷却能力2,500トンという大容量冷暖房装置を用いた地域冷暖房システムや、ノンフロン方式の空調システムなど新しい技術にチャレンジするとともに、病院や美術館など高度な温湿度管理が必要な施設で数多くの実績を積み重ねていったのです。

1973年には、管工事・機械器具設置工事の建設大臣許可を受け、空調から給排水衛生の分野へと事業領域を広げていくことになります。数次にわたるマンションブームによって「空調・給排水衛生」一括発注が主流となり、お客様から要請されるかたちで業務領域を広げていきました。経験のなかった給排水衛生分野については、大手ゼネコン各社の協力をいただきながら技術を学び、自らのものとしていきました。

「冷凍冷蔵」から「空調」へ、そして「管工事」全般をカバーできる会社へと業務領域を拡大してきた菱機工業は、その力を80年代後半からのリゾートマンションブームで遺憾なく発揮することになります。

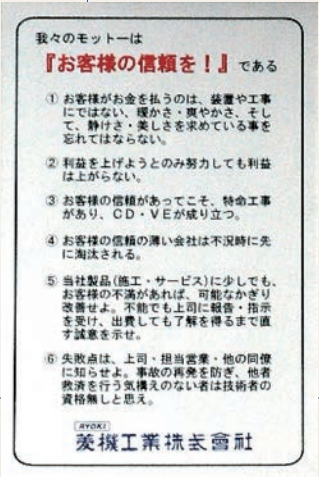


米国研修



海外研修ノートより

元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
昭和43年	1968年	東大闘争など学園紛争が激化 日本のGNPが西ドイツを抜き自由経済国で2位に 十勝沖地震発生(マグニチュード7.9)	11月 北川晶夫が3代目社長に就任(現 相談役)  北川晶夫
44年	1969年	アポロ11号が月面に着陸 東名高速道路全線開通	
45年	1970年	大阪で万国博覧会開幕	2月 高岡営業所を開設。 社員教育一貫として、米国研修(15日間ホームステイ有り) 第1回をスタートさせて、平成26年度で47回となる。
46年	1971年	ニクソンショック	
47年	1972年	札幌冬季オリンピック 田中角栄内閣成立「列島改造論」で土地ブーム	1月 金沢医科大学地域冷暖房装置(2,500ト)の設計・施工。 5月 七尾連絡所(後の七尾営業所)を開設。
48年	1973年	石油ショック、狂乱物価	5月 建設業法改正により、管工事・機械器具設置工事の建設大臣許可(特-48)第1006号の許可を受ける。 6月 福井市民福祉会館空調設備の施工(国際冷凍空調学会:モスクワにて発表)(無公害空調システムとして空気熱源スクリー型冷凍機によるノンフロス方式を開発)
49年	1974年	経済成長率実質マイナス0.5%、戦後初のマイナス成長	
50年	1975年	サイゴン陥落、ベトナム戦争終結	
51年	1976年	ロッキード事件で田中角栄逮捕	4月 石川県立中央病院の空調設備工事。
52年	1977年	プロ野球巨人軍の王貞治が世界新756号本塁打達成	
53年	1978年	第2次オイルショック	
54年	1979年	サッチャー政権誕生	5月 消防施設工事の建設大臣許可(般-54)第1006号の許可を受ける。
55年	1980年	北陸道・富山-米原間開通	3月 三全設備株式会社を管工事会社として金沢市御影町に設立。平成13年9月吸収合併。



行動指針



社のモットーを書にしたもの／得永清三書(後の専務)

INNOVATION

ITによる省エネ技術の構築

昭和56年(1981)～平成6年(1994)

ITとの出会い

「私は社員に、うちの『大メーカーさんが苦手な“手づくりコンピュータシステム”や!』と言ってるんです。全国画一的なシステムでは、お客は満足しない。日本海側の風土に合わせて一人一万色をめざす空調が、私どもの社のとるべき道だと思っています」

空調IT化への先鞭をつけたエンジニアでもあった役山孝之(後の副社長)はそうように語っています。彼こそ、コンピュータの黎明期、海のものとも山のものとも知れぬ未知の装置を、菱機工業に持ち込んだその人でした。

1978年、パナファコムの子コンキット「Lkit-16」(9ページ上 写真:右)を会社に運び込んだ役山は、ハンダこてを手にプリント基板に向かいました。OSはアセンブラによる自作、キーボードもテレタイプ端末を改造したものでした。補助記憶装置は後に8インチフロッピーディスクドライブに代わりましたが、最初はテープレコーダーが用いられていました。こうして手づくりのコンピュータに、これもまた自作のソフトウェアを走らせ、負荷計算や騒音・振動解析に用いたのが、菱機工業とコンピュータとの初めての出会いでした。

RiCSの誕生

この時代の日本は、1974年と78年の2度にわたるオイルショックの影響を受け、戦後初のマイナス成長を経験するという、まさに大きな転換点を迎えていました。原油価格は一気に5倍に急騰し、「省エネ」という言葉があらゆる業界

で焦眉の問題となっていました。オイルショックによって建設業界の需要は大きく減少。菱機工業もまた苦境に立たされていました。

しかし同時に、オイルショックは「エネルギー効率の高い設備」を求めるといった新たなニーズを生み出してもいたのです。

「コンピュータ技術を省エネに活かす」一役山をはじめとする技術陣は、資源節約型の空調システムの開発に取り組んでいきました。その地域の気象台から入手したデータをコンピュータで解析し、センサーで得られた室内のデータと付き合せ、自動的に最適運転できる空調システムを目指したのです。約半年の時を経て完成したRiCSは恒温恒湿装置の運転に採用され、年間15~30%、季節によっては最大60%という驚異的な省エネ効果を発揮。その性能は業界でも広く認められるものとなり、1982年度日本冷凍空調設備工業連合会において省エネ顕彰優秀賞を受賞する栄に浴しました。

進化するRiCS

その後RiCSの機能はコンピュータの性能アップとともに向上し、さらにはCTI(Computer Telephony Integration)やインターネット、ワイヤレス通信技術などと融合しながら、より便利で効率的なシステムとして、時代とともに進化してきました。

一人の技術者の、少年のような好奇心からはじまったITとの出会い。菱機工業はこれからも、そんな少年の眼差しを続ける会社でありたいと思います。

※リョーキ(R)エンタルピー(i)コントロール(C)システム(S)の総称



役山孝之(RiCS考案者)



Lkit-16

元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
昭和56年	1981年	OA流行語に	
57年	1982年	東北・上越新幹線開通	4月 中央監視システム(RiCSシリーズ)のスタート。 4月 新潟県学校給食会の冷凍冷蔵システムに省エネルギーシステムを採用(RiCS-100)(日本冷凍空調設備工業連合会省エネルギー優秀賞受賞)売上工事高100億円突破。
58年	1983年	青函トンネル貫通	2月 新潟鉄工所組立工場の大空間空調システム施工(空調和・衛生工学会賞を受賞) 9月 長野連絡所を開設。平成元年3月、支店に昇格。 11月 加賀営業所を開設。
59年	1984年	グリコ森永事件	9月 長岡テクノポリスの精密機械測定室施工(RiCS-300)(恒温恒湿装置クリーンルームにおいてコンピューター制御による省エネルギーシステムを開発、特許を取得。)
60年	1985年	プラザ合意 日航ジャンボ機、御巣鷹山に墜落	7月 長野県藤井荘に環境用制御監視省エネシステムを採用(RiCS-200)
61年	1986年	チェルノブイリ原発事故、 バブル景気到来(~1991)	
62年	1987年	NTT株が上場1株160万円の初値がつく 国鉄が分割、民営化される	
63年	1988年	円高、狂乱地価、財テク流行	2月 東京支店を開設。平成4年3月に東京本社に改称。
平成元年	1989年	昭和天皇崩御、平成に年号が替わる ベルリンの壁崩壊	9月 和倉温泉加賀屋「雪月花」の空調衛生設備工事を施工。 施工図CADシステムを本支店に設置。 (技術の品質向上と省力化に取り組む。)
2年	1990年	バブル景気崩壊、平成不況へ	6月 新潟県東洋商事に遠隔メンテナンス監視システムを採用(RiCS-400)更に光ファイバー及び通信回線を利用したシステムへと発展。売上工事高200億円を突破。
3年	1991年	湾岸戦争勃発、ソ連崩壊	11月 社員教育の一環として、欧州研修をスタートして、平成26年度で24回となる。
4年	1992年	東京佐川急便事件	1月 湯沢ファミールヴィラ苗場タワー他23件の空調衛生設備工事を施工。 3月 千葉県成田ショッピングセンター「Bon Belta」の空調給排水衛生設備工事を施工。
5年	1993年	皇太子 徳仁親王御成婚 Jリーグ開幕	恒温恒湿装置の特許登録。売上工事高300億円を突破。
6年	1994年	ニューヨーク外為市場で初めて1ドル=100円を突破 村山連立内閣誕生	売上工事高360億円を上げ、最高を記録する。



RiCSシリーズ(100/200/300/400)

TRIAL

新たな事業機会の模索と創出

平成7年(1995)～平成15年(2003)

サービス力、ネットワーク力で躍進

つねに新たな技術分野・事業分野に挑戦し続けることは、菱機工業の社風です。産業用空調や病院用空調など、難易度の高い設備分野で実績を積み重ねてきた菱機工業にとって「高層建築物」もトライすべき課題でした。かねてより抱いていた「高層ビルで新たな技術力を磨きノウハウを身につけていきたい」との熱い思いに、挑戦の機会が訪れたのは1980年代終盤。リゾートマンションブームが日本を席巻した頃のことでした。

菱機工業は新潟県苗場での高層建築物を皮切りに、次いで湯沢を舞台に20階建て以上の高層マンションを次々と手がけていきました。80年代後半から91年代初頭までのバブル経済の期間を通じて、湯沢には1万数千戸のリゾートマンションが開発され、それらの2割近いシェアを菱機工業が手がけることとなりました。

これら案件の受注に成功した要因のひとつは、すでに70年代から行なっていた「空調＋給排水衛生」設備を一貫してこなせる体制を整えていたことでした。またそれに加え、各事業拠点で設計・施工力に加えサービス・メンテナンス力をワンユニットとして備えていたことや、数多くの協力業者とのネットワークを築いていたことも、受注成功の要因でした。

バブル崩壊後も堅調な経営を維持

またこの時期には、日本を代表する温泉旅館加賀屋をはじめ多くのリゾート施設の空調衛生

工事も施工。こうした時代の上昇気流に乗り、菱機工業は1994年には過去最高の売上高360億円を記録することとなりました。しかしその後バブルは崩壊。急激に膨らんだリゾートマンション需要の分だけ、売り上げの落ち込みを経験することになりました。

しかし、世の多くの企業がバブル崩壊とその後の景気低迷にあえぐ中、菱機工業の被った影響は最小限度にとどまり、売上こそ減少したものの人員削減は一切行なうことなく、むしろバブル崩壊後も堅調な経営を維持し続けることができました。

その理由として、バブルで膨張した仕事量は、それまでに築いてきた協力業者とのアライアンスで乗り切ったこと。事業拠点を北陸・信越・首都圏・東北に分散し、多分野にわたる事業を行っていたため、ひとつの拠点や事業の落ち込みを他の拠点・他の事業がカバーしえたことがあげられます。90年代初頭からはじまった大型ショッピングセンターの開発もそのひとつでした。協力業者との連携によって短工期で仕上げた。協力業者との連携によって短工期で仕上げた。協力業者との連携によって短工期で仕上げた。省エネ提案力が評価され、全国各地のショッピングセンター開発で実績を重ねていったのです。

そしてこの時期から菱機工業は、それまでの施工実績とサービス・メンテナンス力をベースに、新たな事業機会の創出に取り組みはじめます。それが今日においてその重要性を高めつつある「リニューアル事業」です。



湯沢リゾートマンション



加賀屋 雪月花



石川県立音楽堂

元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
平成7年	1995年	阪神・淡路大震災発生(マグニチュード7.2) 地下鉄サリン事件	
8年	1996年	病原性大腸菌「O157」による食中毒が全国各地で発生	
9年	1997年	消費税率5% 神戸児童連続殺傷事件 山一証券など金融機関破綻相次ぐ	新入社員研修の一貫として、1週間程度米国研修をスタートして現在にいたる。
10年	1998年	長野冬季オリンピック 完全失業率4%台	3月 RiCS商標登録。
11年	1999年	通貨「ユーロ」始動 日銀ゼロ金利政策	1月 新潟支店 ISO9001の認証を取得。 8月 新潟支店直轄(仙台支店・長岡支店・長野支店・上越営業所) ISO9001の認証を取得(組織拡大)
12年	2000年	ユニクロヒット 衆議院選挙で初めて有権者が1億人を越える	1月 金沢本社(加賀営業所・七尾営業所含む) ISO9001の認証を取得。 7月 金沢本社直轄(東京本社・富山支店・福井支店) ISO9001の認証を取得(組織拡大)
13年	2001年	小泉内閣発足、9.11テロ	5月 石川県立音楽堂の空調設備工事。
14年	2002年	ワールドカップ日韓同時開催	営業情報システムを実施。 11月 石川県警察本部庁舎の空調設備工事。 12月 新潟コンベンションセンター(朱鷺メッセ)の空調設備工事。
15年	2003年	完全失業率5.5%、イラク戦争開戦	 朱鷺メッセ  石川県警察本部庁舎
		 イオンショッピングセンター	

VISION

設立60年のその先へ

平成16年(2004)～

「末永い」お客様の信頼を！

「お客様の信頼を！」—これは菱機工業が長年にわたり掲げ続けてきたモットーです。

2004年、4代目の社長として就任した北川雅一郎は、このモットーに“末永い”という言葉を加え、「“末永い”お客様の信頼を得る」ことが、これからの菱機工業の経営の指針となるべきだと唱えました。お客様は菱機工業から設備や機械を購入しようとしているのではなく、設備や機械によってもたらされる快適さや利便性をこそ求めている。したがって菱機工業の仕事は、設備や機械を設置して終わりというものではなく、メンテナンスやリニューアルを通じて、何十年にもわたってお客様に快適性や利便性を提供し続けていくことにある。「今」だけでなく「未来」においても、お客様の信頼に応え続けられること。それが菱機工業の使命なのだと、改めて提唱したのでした。

設備を通じてお客様の事業を支援

「末永い」という未来への「時間軸」を取り入れることで、新たな視点が生まれます。そのひとつが、「造る・建てる」から「賢く使う」への転換です。設備を造ることは決してゴールではなく、お客様とのお付き合いのスタートにほかなりません。お客様を取り巻く外部環境や経営環境はつねに変化し続けます。その変化に対応しながら、お客様にとって最適の「環境」や「空間」を維持・更新・創造し続ける。そしてお客様の事業活動・経営活動を支援していく—そんな企業像が生ま

れます。

メンテナンス・リニューアル事業の強化や、ESCO※1事業への積極的な取り組みも、そうした「新しい設備業」を志向する試みのひとつです。

菱機工業はこれから、環境や最適空間の創造・維持に関わる「すべて」を事業領域とし、設備を通じてお客様を支援していく企業へと脱皮していこうとしています。

イノベーションの伝統をこれからも

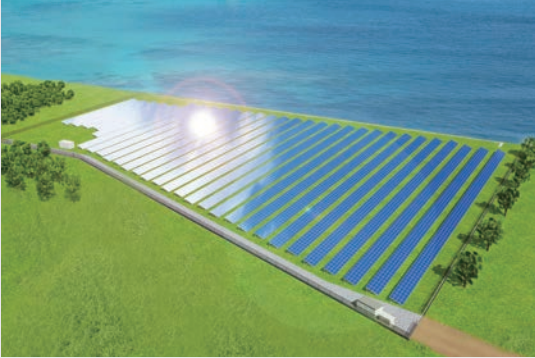
菱機工業の60年の歴史は、「お客様密着」と「技術志向」から生まれたイノベーションの歴史でもあります。新しい技術へのあくなき好奇心と、お客様の期待に実直に応えていく粘り強さ—こうした力の融合によって、RiCSをはじめとするいくつものイノベーションを起こしてきました。その伝統は今も、例えば「植物工場」※2や太陽光発電など再生可能エネルギーの事業化など、未知の分野への挑戦として受け継がれています。

「環境」「空間」「エネルギー」をキーワードに、お客様とともに新たな価値を創り出す—それが菱機工業の使命だと、私たちは考えています。

※1：省エネルギー効果の保証等によりお客様の省エネルギー効果の一部を報酬として受取る事業システム
※2：産官学プロジェクトとして実用化に取り組んでいる完全人工光型植物工場



菱機仕様

元号	西暦	社会の出来事	会社の歴史
平成16年	2004年	アテネオリンピック	9月 ISO14001の認証を取得。 12月 北川雅一郎が4代目社長に就任。北川晶夫が会長に就任。
17年	2005年	京都議定書発効 愛知万博開幕 耐震強度偽装問題	2月 ESCO(顧客の光熱水費等の経費削減を行い、削減実績から対価を得るビジネス形態)事業に参入し、上越市庁舎の空調設備工事。以後多くを手掛ける。 3月 PFI(民間資金等活用事業)に参入し、金沢大学付属図書館の空調設備工事。
18年	2006年	ジャワ島東部で地震発生	
19年	2007年	郵政民営化、日本郵政グループ発足	10月 会長 北川晶夫が黄綬褒章を受章。
20年	2008年	北京オリンピック リーマン・ブラザーズ破綻、世界金融危機 中国で四川大地震	
21年	2009年	米大統領オバマ就任 米ゼネラルモーターズ経営破綻	
22年	2010年	日本航空会社更生法適用申請 尖閣諸島で巡視船、中国漁船衝突	
23年	2011年	東北地方太平洋沖地震M9過去最大(福島第一原発で国内初の炉心溶融) 中国が日本を抜きGDP世界2位	
24年	2012年	東京スカイツリー開業	4月 菱機ホールディングス株式会社設立。 9月 豪雪地での雪氷・地中熱エネルギー利用の完全人工型植物工場を建設。(完全人工光型植物工場栽培設備に関連する特許を出願中)
25年	2013年	2020年、東京五輪開催決定	4月 菱機のこれまでの施工技術と設計技術をまとめた「菱機仕様」を編纂(施工版・設計版) 9月 RYOKI ENERGY株式会社設立 太陽光発電事業に参入。
26年	2014年	消費税8%導入	9月 相談役 北川晶夫が旭日双光章を受章。 10月 設立60年を迎えた。
			
		植物工場(新潟県南魚沼市浦佐)	太陽光発電所(石川県七尾市)